

政府・NPOによる野生動物に関する取り組みについての考察
ー日本のウミガメをテーマとしてー

3810120003

宮 恒平

Study of the approach about wild animals by the local
governments and NPOs in Japan
- For the sea turtle in Japan -

KOHEI MIYA

Today, denizens of the sea turtle are descending in Japan, and registered as one of the endangered species by UNESCO. We can see it at the seashore in Kagoshima, Miyazaki, Aichi, Shizuoka prefectures etc. In 1950, the first study of Sea-Turtle^{*1} in Tokushima prefecture started by the Hiwasha city's elementary school^{*2} students in Japan.

As the reasons of descending it are the descending sand of beach, entering many cars in the beach, and many people use lights in the beach on the night.

The measures should take to preserve the safety of it. For example, to establish the observation system not to come in the beach and to stop specific persons run away with turtle's eggs.

And, my research object is to propose about the future counter-plans of guardianship with local governments and the NPOs.

※1 Sea turtle's means logger head turtle in Tokushima pref.

※2 Hiwasa city's elementary school in Tokushima prefecture.

Keywords: sea turtle, environmental education, beach, 1950's, Tokushima pref

キーワード:ウミガメ 環境教育 砂浜 1950年 徳島県

〈論文構成〉

第一章 序論

- ・ 研究背景
- ・ 研究目的および研究方法

第二章 うみがめとは

- ・ ウミガメの生態
- ・ ウミガメの生息域
- ・ ウミガメが減少する理由

第三章 各県の取り組みおよび問題点

- ・ 鹿児島県屋久島町
- ・ 愛媛県旧日和佐町
- ・ 兵庫県神戸市
- ・ 愛知県名古屋市
- ・ 静岡県浜松市

第四章 結論

予備資料

謝辞

参考文献

〈要約〉

ウミガメにおける保護の制度化を始めたのは屋久島で制定された1980年半ばからであり、ウミガメの保護に関する歴史は30年足らずとまだ浅い。最初にウミガメの研究を始めた旧日和佐町でも、ウミガメの保護条例が制定・施行されたのは1995年と、研究開始から40年も経ってからである。

またウミガメは減少傾向であるが、それだけではなく産卵場所である砂浜も減少傾向であり、人工的に砂を投入して増やすことや海岸植物を植えて海への流出を防ぐ対策をしているが、それでも減る一方である。このまま砂浜が浸食する一方であれば、日本におけるウミガメは絶滅する可能性がある。

ウミガメは、産卵やふ化のシーズンの4～9月になると平均約1ヶ月に1度の頻度で、静岡県浜松市の海岸でウミガメの産卵調査や子ガメの放流会のボランティアに約4年間参加した。

筆者は大学3年の時から、浜松市におけるウミガメの保護に関するボランティアに参加している。参加する回数が増すにつれ、ウミガメの生態そして浜松市やNPOのウミガメに関する取り組みについて興味を持った。

また「ウミガメは減少傾向である」と、私がウミガメの保護に関するボランティアに参加し始めたとき、浜松市のウミガメ保護を行うNPOのスタッフが指摘した。それを聞き、調べてみると浜松市では約20年間でピーク時の1990年代前半は240頭ほどものウミガメが上陸したのに対して、2000年に入ると100頭上陸するのが珍しいこととなった。これは浜松市のみに限らず、日本でウミガメが一番上陸されている屋久島でも、同じような傾向が見受けられた。

旧日和佐町から発信したウミガメの保護活動は、屋久島や宮崎市、神戸市、浜松市など、

主に日本国内の太平洋側の地域で広まった。ここ 4～5 年は、保護活動の効果が出てきたからか、上陸回数・産卵回数は増加しているものの、過去 20 年の数を見てみると減少していることが分かる。また地域の特性を活かしてか。ウミガメの放流会の方法について違うところが見受けられる。

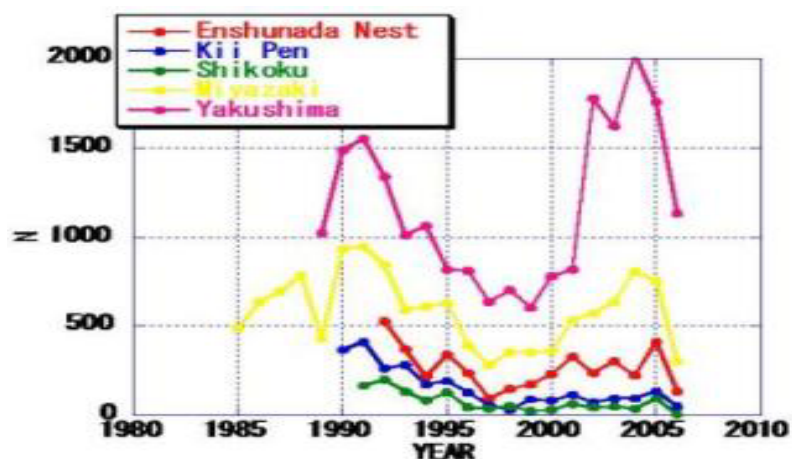
そのため、本研究では行政や NPO におけるウミガメの保護に関する取りくみについて、環境教育を中心とした政策におけるウミガメの保護につながる対策について提案することを目的とする。

本研究における研究方法は、現地調査、ヒアリング調査、文献調査である。現地調査に行った地域は静岡県浜松市、鹿児島県屋久島町、愛知県名古屋市、兵庫県神戸市である。ヒアリング調査は、浜松市と屋久島町の NPO 職員、浜松市と屋久島町、名古屋市、田原市の市役所職員、名古屋市の神戸市の水族館、日本ウミガメ協議会*のスタッフに行った。文献調査に関してはウミガメの生態や保護、環境教育などに関する書籍や、それらに関する論文で調査を行っている。

日本におけるほとんどの地域におけるウミガメの上陸数が 2005 年頃には一度、増加傾向である。産卵数においても同じ傾向であり、それは以下の図表 1 の通りである。屋久島や宮崎市、遠州灘海岸(静岡県～愛知県)においては増加しているものの、紀伊半島(和歌山県・大阪府等)や四国においては増加傾向しているのは見られず、またウミガメへの興味・関心が増したことで、2005 年以降はウミガメの上陸は減少しつつあるのが図表 1 で分かる。

※日本ウミガメ協議会とは・・・日本におけるウミガメの情報をまとめている団体である。

図表 1：日本における主な産卵地におけるウミガメの産卵数



(出典：日本ウミガメ協議会 日本におけるウミガメの上陸数)

(注)黄色のラインは宮崎県の値になる。上に伸びるのはウミガメの上陸数、横に伸びるのは上陸した年(西暦)となる。

どの地域においてもウミガメの保護における環境教育や制度作り、砂浜の清掃活動等を積極的に行っているのにも関わらず、なぜ結果が違ってくるのか。それはおそらく温暖化や砂浜の形状の変化、海中における餌となる動植物などの分布が変化しつつあるからではないかと考える。

そのためウミガメにおける環境教育は、ウミガメの生態や保護に関することを伝えるだけでなく、その地域における砂浜や海における生態系とウミガメの関係性を伝えるべきであると考えます。

その他には、兵庫県神戸市では、「ウミガメエコツアー」を夏期～秋期にかけて開催しており、また静岡県浜松市では、8～9月には子ガメの放流会を行っている。問題点として、たとえば浜松市では砂浜の一部が車両の乗り入れが可能となっており、それが1つの問題となっている。浜松海岸におけるウミガメは轍の影響で、産卵直後のウミガメや保護しきれなかった子ガメが海に帰れなくなってしまう可能性が高くなる。

以上のことをふまえ、結論は以下の通りである。

- ・ 砂浜の利用者に対してマナーの周知をするため、人の出入りが多い箇所にウミガメが上陸するような注意書きをしたパネルを設置することを提案する。
- ・ 日中は砂浜の踏み荒らし、夜はライトや携帯電話による光害や卵の盗掘などが発生する可能性があるため、観察員制度の導入を提案する。観察員がマナーやウミガメに関する知識を知っていれば、そこで砂浜利用者に意識付けすることもできる。
- ・ 砂浜の減少の1つとして、海浜植物がないことによって砂が海へ流出している可能性がある。海浜植物が植えてある場合、防波堤より砂の流出を防ぐことが出来る。そのため、海浜植物の積極的な植え付けを提案する。